

## 別紙参考様式 2

### 令和 6 年度研究推進計画

学 校 名 東広島市立木谷小学校

学校長名 中 谷 浩 子

#### 1 研究主題,研究内容・方法等について

##### (1) 研究主題 自立した学び手を育てる個別最適な学びの創造

～児童の学ぶ力を信じ、多様な選択肢と自己決定の場を設定した学習活動を通して～

##### (2) 主題設定の理由

本校では、学校教育目標を『「今日も学校に来てよかった』と思える学校づくり』とし、児童が主体的に学び合い、「わかった、できた、よかった」を日々実感できる学校づくりを目指して取組を進めている。また、本校において育成したい資質・能力を「課題発見・解決力」「論理的思考力・表現力」「協働の力」「実践力」とし、様々な教育活動を通して育成していくことを目指している。

令和 3 年度から 3 年間、国語科での取組を通じて本校で育成したい資質・能力を確かな力として身に付けられるよう、付けたい力を明確にした単元構想の工夫や、三角ロジックを用いた学習活動の充実、国語科「読むこと」の単元構想「考えの形成」及び「共有」の段階に焦点化した研究を進めてきた。その結果、「根拠や理由を明確にして、自分の考えを伝える（主張）ことができる」児童の姿が見られるようになった。児童・教職員アンケートや学習状況から児童の基礎学力の定着や論理的思考力の向上、主体的な学びの実現を含めた授業改善に対して一定の成果を上げることができた。しかし、児童一人一人が考えをもてるようになってきているものの、教師の働きかけによって児童が考えをもつことが多く、自ら考えをもったり、深めたり、広げたりするためにどのような情報が必要なのか、どうすればそのような情報が集められるのか、まとめられるのか、学習の見通しと計画を自らが立てて、取り組む段階までには至っていない。児童は、示された課題に対しては前向きに取り組めるものの、自分を見つめ、自分の課題を設定し、課題の解決に向けて取り組む力に乏しい実態がある。

広島県教育委員会による「広島県の 15 歳の生徒に身に付けておいてもらいたい力」に示されている力として、「自己を認識する力」「自分の人生を選択する力」「自分を表現する力」がある。これまでの取組で身に付けた、自分の考えの根拠を明確にし、論理的に伝えようとする力、つまり「自分を表現する力」を生かし、課題に取り組む際にまず到達点を確認する。そして、目標の達成に至るまで、現在の自分に身につけている力や不足しているものを把握する経験をさせる。児童自身が学びの場を選択し、自ら課題解決に向けて取り組んでいくことで確かな資質・能力を育成することにつながるものと考えている。加えて、

算数科の教科の本質として「数学的な見方・考え方」を働かせながら学習に取り組むことで、課題の解決に向けて探究することにより、学びがさらに豊かで確かなものになると考える。

そこで今年度は、昨年度までの研究で児童が身に付けた力を基盤としながら、算数科の学習を通じて、多様な選択肢と自己決定の場を設定した学習活動の充実を図り、育成すべき資質・能力をよりよく身に付けさせることにつなげていきたいと考え、研究主題を「自立した学び手を育てる個別最適な学びの創造～児童の学ぶ力を信じ、多様な選択肢と自己決定の場を設定した学習活動を通して～」として研究を進めていくこととした。

### (3) 研究仮説

児童の学ぶ力を信じ、多様な選択肢と自己決定の場を設定した学習活動を行えば、確かな資質・能力を身に付けた自立した学び手を育てることができるであろう。

### (4) 研究内容

○ 次の2点について、これまでの取組で身に付けた力を基盤に研究を進めていく。

#### ① 「学びのPDCA サイクル」の学習過程を取り入れた単元構想。

児童に確かな資質・能力を身に付けさせるため、教師が課題を設定し、児童が取り組む学習形態ではなく、児童の主体的な学びを育成する。児童が「自分で学習計画を立て、自分で実行し、自分で振り返る。次に生かす。」学習過程を取り入れた単元構想として、オリエンテーションで教科を学ぶ意義について確認する本質的な問いを投げかけ、児童自身が学ぶ意義や課題を設定することができるような導入を行う。児童は一人一人が自分の目標に沿った計画を立てる (P)。そして、課題を追究するために一人一人が学びの場を選択して学習に取り組む (D)。まとめと振り返りを行う (C)。今後の学習活動に生かしていく (A)。

#### ② 多様な選択肢と自己決定の場がある学習活動。

決められた課題に対して、決められた方法で解決に向けて取り組むことは、本校で育成したい資質・能力を育むことにはつながらない。「学びのPDCA サイクル」の学習過程を取り入れ、児童自身が主体的に学びを進めていくためには、自己を認識し、児童自らが課題を設定して、どのようにして課題を解決していくのか考えて学んでいくことが必要である。そのために、自らが設定した課題に対して、どのように解決していくか、学習の場や方法など多様な選択肢の中から自己決定していく場面を意図して設定し、知識・技能とともに本校で育成したい資質・能力を身に付けていけるようにする。

(5) 検証の方法及び指標

理論研究	授業研究	調査研究
<p>確かな資質・能力を身に付けた自立した学び手を育てるための授業づくり</p> <p>・「学びのPDCAサイクル」と多様な選択肢と自己選択の場を設定した授業づくり</p>	<p>児童の学ぶ力を信じ、多様な選択肢と自己決定の場を設定した学習活動の充実</p> <p>① 「学びのPDCAサイクル」を意識した単元構想</p> <p>② 児童が見通しをもって学習に取り組める学習計画表の活用</p> <p>③ 多様な選択肢と自己決定を生み出す学習の場とワークシート</p> <p>④ 次の学びへと繋がる効果的な振り返り</p>	<p>取り組んだ教科における児童の実態調査と分析</p> <p>・意欲</p> <p>・学び方</p> <p>・到達度</p>
検証方法及び指標		
<p>・教職員アンケート</p>	<p>・授業観察表</p> <p>・ノート、ワークシート等</p>	<p>・児童アンケート(4月・授業後)</p> <p>・ノート、ワークシート等</p> <p>・単元末テスト</p> <p>・学習計画表</p>

2 検証計画

検証の視点	方法	検証の指標	検証の視点	時期
① 学習計画表の活用によって、児童が見通しをもち、次につながる振り返りを行うことができているか。	学習計画表	教師による評価	児童の記述から	各学年の授業計画による
	児童アンケート	児童による自己評価	肯定的評価80%以上	6月に実施後、各学年の授業研究後に実施
② 多様な選択肢の中から自己決定していく場面を意図して設定することにより、授業のねらい及び単元のねらいを達成できていたか。	授業評価表	研究授業における相互評価	肯定的評価3以上(4段階評価)	
	ノート ワークシート 学習計画表等	ノート、ワークシート、学習計画表の記述内容	評価基準B以上を達成する児童の割合80%以上	各学年の授業研究後に実施
③ 「数学的な見方・考え方」を働かせる授業づくりにより、「知識・技能」の力が生きて働くものとして身に付いているか。	単元末テスト	学力評価	設定点数到達率80%を達成する児童の割合80%以上	6月・9月及び12月に実施

### 3 校内研修計画

月	研修内容
4	○研究主題・目指す子ども像について ○児童の学ぶ力を信じ、多様な選択肢と自己決定の場を設定した学習活動の充実に関わる取組について確認
5	○児童の実態調査・分析及び考察 ○児童の学ぶ力を信じ、多様な選択肢と自己決定の場を設定した学習活動の充実に関わる取組について理論研修 ○全国学力テスト問題分析 ○学習計画表・指導案の書き方、木谷版自由進度学習の取組について
6	○研究授業を見る視点と協議の進め方について ○教材研究，学習計画表・指導案・ワークシート等の作成 ○研究授業に向けた指導案検討（高学年ブロック）
7	○研究授業及び事後指導（高学年ブロック） ○次回以降の研究授業について
8	○教材研究，学習計画表・指導案・ワークシート等の作成 ○NRT 学力分析結果交流 ○研究授業に向けた指導案検討（低・中学年ブロック）
9	○研究授業及び事後指導（中学年ブロック）
10	○研究授業及び事後指導（低学年ブロック）
11	○児童の実態調査・分析及び考察
12	○紀要の作成について
1	○CRT 結果分析 ○紀要の作成 ○年間の取組の振り返りと検証
2	○今年度の成果と課題 ○来年度の研究の方向性

### 4 公開研究の予定について

なし